

教養としてのテクノロジー

伊藤穰一 著

著者は、MIT（マサチューセッツ工科大学）メディアラボの所長として世界を飛び回っており、日々いろいろな人と触れ合う中で「テクノロジーが変えつつある世界を実感」した内容を本書にまとめた。

本書は、経済、社会、日本の3つのパートに分かれており、1章から3章までは「経済の未来」、4章・5章は「社会の未来」、6章・7章は「日本の未来」について述べられている。

インターネットが一般に普及して、すでに20年ほどが経った。「情報革命」とよばれた時代はすでに終わり、テクノロジーは私たちの経済や社会を根底から変えようとしている。テクノロジーが経済や社会へ与える影響を知るものとして、またその変化と真剣に向き合うきっかけになる一冊である。

第1章「AI」は「労働」をどう変えるのか

G (Google), A (Apple), F (Facebook), A (Amazon) など、IT時代に急成長を遂げたアメリカの巨大企業は、歴史上かつてないほどの喜びや経済的な繁栄・発明を私たちにもたらしてきた。AI技術はあらゆるサービスのインフラとして、既に実用化の域に達しつつある。しかし、人間の労働は経済効果だけでは語ることはできない。それは、人間はお金のためだけに働くわけではないからだ。自分の生き方の価値を高めるためにはどう働けばいいのかという示唆を示している。

第2章「仮想通貨」は「国家」をどう変えるのか

仮想通貨は、日本でも2017年4月に法律が変わり「仮想通貨交換業」が登場すると一気に知名度が上がった。将来、通貨がデジタル化によって置き換わるとすると、本当に仮想空間に独立した国が出来るかもしれない。新たな資金調達手法などをテクノロジーの視点で解説している。

第3章「ブロックチェーン」は「資本主義」をどう変えるのか

仮想通貨を支える技術としてブロックチェーンに注目が集まっている。この章では、ブロックチェーンとは何か、自然通貨と仮想通貨について解説している。

第4章「人間」はどう変わるのか

そもそも人間とは何かというテーマから、人工知能や人間拡張のテクノロジーが発展する観点で人間の果たす役割や意味を解説している。

第5章「教育」はどう変わるのか

アメリカでは、既存の教育システムにとらわれない学校教育の外で子どもを育てる「アンスクール」が実践されている。アンスクールについて、教育システムを変えるのではなく、価値観から変えるべきだと主張している。

第6章「日本人」はどう変わるべきか

日本人には「人対神」という概念や、「誰がAIやロボットを支配するのか？」といったテーマを倫理的に考える視点がない。日本がこうしたテクノロジーの流れに対して、どのようにかかわることができるかが、いま問われている。

第7章「日本」はムーブメントを起こせるのか

インターネットが生まれる前と後では、世界は全く変わった。さらに、AIの登場により、なおさら未来のことの想像がつきにくくなってきた。ゆえに、あらたなムーブメントを起こさなければならない時が来ている。

(NHK 出版新書 193 頁, 780 円 + 税) (長田利彦)